

SDGs スタートアップ研究分科会
アドバンスコース第4回情報交換会 実施報告

2022年2月1日

PMI 日本支部

SDGs スタートアップ研究分科会

アドバンスコース・リーダー 歳弘 浩三

去る1月21日(金)、SDGs スタートアップ研究分科会のアドバンスコース第4回情報交換会を開催しましたのでご報告いたします。

アジェンダは次の通りです。

1. 2021年度SDGs スタートアップ研究分科会活動状況概要
2. アドバンスコース参加団体の情報交換
 - a. 舞鶴工業高等専門学校（舞鶴地域における小規模河川の防災対策プログラム）
 - b. 株式会社カルティブ（企業版ふるさと納税を利用した地域課題プラットフォーム）
 - c. 有限会社ウイルパワー（循環ビジネスの社会的役割の実施）
 - d. 高野山真言宗大師教会 和歌山教区＜三密教会＞（SDGs 理念共有のハウスシェア、持続可能なくお家＞活用）
3. ディスカッション

各項目の概要をお伝えします。

1. 2021年度SDGs スタートアップ研究分科会活動状況概要

・SDGs スタートアップ研究分科会

PMI 日本支部は、SDGs 達成プロジェクトを効果的に軌道に乗せ推進する方法の開発・普及を図るために、2019年10月から内閣府「地方創生 SDGs 官民連携プラットフォーム」に「SDGs スタートアップ研究分科会」を設けています。

本年度は、昨年度に引き続きSDGs プロジェクトのマネジメント手法を学ぶ「ベーシックコース」と、実際に事業として行っているSDGs プロジェクトを支援する「アドバンスコース」の二本立てで実施しています。

去る12月17日(金)に、2021年度SDGs スタートアップ研究分科会ベーシックコース第2回の会合を開催しましたのでご報告いたします

詳細は次のウェブサイトをご覧ください。

https://www.pmi-japan.org/topics/20211220_SDGs_Startup_Basics_Report.pdf

における IT を活用した地域活性化の取り組み、2021 年度の活動のまとめと今後の活動計画が紹介されました。

プロジェクトの全体像、2021 年度活動として、

「舞鶴地域における小規模河川の浸水対策について」のテーマで、2019 年の PMI 日本支部主催の SDGs スタートアップ分科会 ベーシックコースに参加し、SDGs スタートアップ手法を活用し、2019 年 12 月に舞鶴市、KDDI、舞鶴高専で 3 者協定を結び、その後オムロン社が参画し、プロジェクトを推進してきました。

2020 年度、2021 年度においては、SDGs スタートアップ分科会 アドバンスコースに参加し、2020 年度の活動として、ドローン測量により詳細な地形データを計測、氾濫解析 (Info Works ICM の活用)、舞鶴市民・舞鶴市・舞鶴高専の共同で舞鶴市に防災まちづくりを目指す、「SDGs の達成に向けた共創的研究開発プログラム」を推進してきました。2020 年度に作成した WBS を基に 2021 年度での新たな活動を追加し WBS を更新し、また課題管理、リスク管理表を作成してプロジェクト推進に活用しています。

防災・観光分野における IT を活用した地域活性化の取り組みとして、

大雨による洪水、高潮による道路の冠水の予測と対策としてまず検討し、また更に、減災・防災に役立てるようなシステムを構築し、そして観光における負のイメージを払拭したい。

具体的には、小規模河川のモニタリングシステムと伝達方法を確立し、防災都市としてのインフラ整備 (電光掲示板など)。

これまでの成果 (タンクモデル等) に加えて、定点カメラを用いたモニタリング方法の試行錯誤を行っている。定点カメラの設置個所や微調整が必要であるが、水位情報の可視化に加えて観光資源の検索と紹介も行っていきたい。これらの活動の一部は (一社) 京都知恵創造産業の森の事業支援を受けている。

また、AI による検出はこれから行っていく。

b. 株式会社カルティブ (企業版ふるさと納税を利用した地域課題プラットフォーム [river])

(報告: 株式会社カルティブ 企業版ふるさと納税コンサルタント 小坪拓也氏)
企業版ふるさと納税を利用した地域課題解決プラットフォーム [river (リバー)] という名称で、「企業版ふるさと納税の活用を目指す自治体と企業が、制度利用のためのコーディネートを得られるサービス」を提供しています。

今年度の成果として、企業版ふるさと納税の活用の成約件数: 227 件、成約寄附金額: 108,550 千円、契約自治体数: 60 団体、提案企業: 263 社、登壇セミナー数: 180 回、

セミナー参加者:4,460名、river認定講師:11名となり、またYouTubeでの公開動画数:109件 / 動画視聴数:25,113回、取り上げられた媒体数:10件以上でも活発な活動ができました。

また、地方創生SDGs官民連携プラットフォーム優良事例に選ばれました。

<https://future-city.go.jp/platform/information/event211215.html>

c. 有限会社ウイルパワー(循環ビジネスの社会的役割の実施)

(報告:有限会社ウイルパワー 代表取締役 江川 健次郎氏)

- ・有限会社ウイルパワーの活動目標、原点が明確化され、SDGsスタートアップ手法を活用して、リーンキャンパスの作成、ロジックモデルの検討を通じての気づき、課題へのチャレンジを紹介されました。

有限会社ウイルパワーの事業活動 『循環ビジネスの社会的役割の実施』

スタートアップ方法論を活用したビジネスプロセスの1月までの検討経緯を説明され、ロジックモデル・リーンキャンパスを作成したことで頭の中が整理できた。

その結果、プロジェクト内容を伝え易くなった。また、チームのPMI日本支部のサポーター(理解者)に活動内容を相談・確認・行動。サポーターの存在が活動の励みになっている。ロジックモデルを活動テーマ毎に作成した。

循環経済の存在価値を高めるために、地元岡山か、リユース・リサイクルを通じて、ごみを活用する事業にフォーカスし、「ゴミにしない!」文化を創る。廃棄を価値に変える『サーキュラー・ステーション』創設を推進していく。

d. 高野山真言宗大師教会 和歌山教区<三密教会>(SDGs理念共有のハウスシェア、持続可能な<お家>活用)

(報告:高野山真言宗大師教会 和歌山教区<三密教会> 浅田慈照氏)

現代版「かけこみ寺」を全国に ~すべての人が自分らしく住まう空間確保~
全国津々浦々に点在する高野山真言宗寺院に働きかけ、マイノリティ支援の拠点作りを行う。

高野山真言宗は「我即大日・即身成仏」を、教義の中心に据える宗派である。

「即」は、時間や場所を変えず、現時点の状態を表す。一切の生き物が今時点そのまま成就者・完成者である。そして、すべてが平等な関係であることを意味する。

この人間観をベースに、人がそれぞれの地域社会で「自分らしく」生活できる拠点を、今後も増やす啓発活動を行う。

また拠点拡大のみならず、現在のLGBTQ+支援を外国籍人・障がい者・高齢者・若者・と対象者を拡大し、多様性が地域コミュニティ再生に繋がる啓発も続けてゆく。

3. ディスカッション

今回は、以下のテーマについて、各団体からの意見交換、ディスカッションを行いました。
今年度の活動振り返り今後の課題やテーマについて

- ・補助金を含めて予算もある程度確保でき、今計画中のプロジェクトを推進する計画。
PMI 研究報告書でこれまでのプロジェクトをまとめた。 今後は、小規模河川の防災対策プログラムに IT 漁業等のプロジェクトを含めて、地域全体として課題を発見して解決し、その中でスタートアップを進める方法を展開していく。（舞鶴高専：内海氏）
- ・PMI 日本支部の支援を得ていろいろ検討できた。これからも PMI 日本支部の絶大なる支援を得て今後の活動を進めて行きたい。（ウイルパワー：江川氏）
- ・これまで推進してきた活動を PMI 日本支部の支援を得て、SDGs の観点から見直し、今後
もさらに進めて行きたい。（三密協会：浅田氏）

本件についてご関心、ご要望がありましたら下記にお問い合わせください。

PMI 日本支部 SDGs 担当(sdgs@pmi-japan.net)